

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2026年度	開講キャンパス		宮崎キャンパス		開設学科		管理栄養学科	
科目名称	栄養教育総論					授業形態	講義		
科目コード	304800	単位数	2単位	配当学年	2	実務経験教員	○	アクティブ ラーニング	○
担当教員名	原口 直樹							ICT活 用	○
授業概要	「食」を通して人々の生命や成長・生活の質（QOL）向上・健康の維持増進を支援する専門職である管理栄養士としての必要な知識・技術の基本を学ぶ。【態度・志向性の育成】 特に総論では栄養教育の目的に加え、人の行動の特性について全人的な側面から捉えることの重要性を学ぶことになっている。人々の望ましい行動変容を支援するための、行動科学の理論と代表的な技法、栄養カウンセリングにおける初回面接やコミュニケーションの重要性や方法などについて、事例とともに学ぶ。 授業期間中において学ぶことはできても、身につけることができない資質・能力については、3年次以降の関連する授業科目や諸活動等を通して学ぶ。【生涯学習力の育成】								
関連する科目	専門基礎分野の科目を事前に、履修後は、栄養教育各論Ⅰ・Ⅱを履修することが望ましい。								
授業の進め方 と方法	授業内容の復習と理解度の確認を目的として、「確認テスト」を実施する。 授業は主に講義形式で行うが、課題を設定し、ディスカッションや少人数でのロールプレイを取り入れるなど、アクティブ・ラーニング型の授業を展開する。さらに、理解を深めるために、事例研究やグループワークを取り入れ、レポート作成を通じて自身の考えを表現する機会を設け、実践的な学びを促進する。【汎用的技能の育成】 授業の媒体としては、スライドや動画教材を活用し、視覚的・体験的な理解を支援する。 担当教員の医療機関における栄養管理・栄養指導の実務経験、ならびに行政・教育機関・企業等との共同事業・研究経験を活かし、行動変容支援、栄養カウンセリング、組織・地域づくり等について実践事例を取り入れながら授業を行う。								
授業計画 【第1回】	「栄養教育・指導の概念（定義・概念、目的、目標） ～栄養教育における管理栄養士の役割と責務～ 栄養教育の定義・目的・目標について講義し、栄養教育における管理栄養士の役割と責務について理解する。								
授業計画 【第2回】	「栄養指導・栄養教育の歴史（日本・世界）」 ～栄養学・栄養教育の発展～ 日本および世界における栄養指導・栄養教育の歴史的変遷について講義し、栄養教育の発展過程を理解する。								
授業計画 【第3回】	「国民の栄養・食事の現状と課題」 日本人の栄養・食生活の現状と課題について講義する。社会環境の変化と栄養・食事の課題を理解する								
授業計画 【第4回】	「栄養教育のための基礎理論」 栄養教育に必要な基礎理論について講義し、食行動変容の仕組みについて理解する。								
授業計画 【第5回】	「栄養教育と行動科学（行動科学の定義と目的）」 行動科学の定義と目的について講義し、栄養教育における行動科学の必要性を理解する。								
授業計画 【第6回】	「行動科学の理論とモデル①（個人レベルの理論とモデル）」 個人レベルの行動科学理論について講義し、栄養教育への活用方法を理解する。								
授業計画 【第7回】	「行動科学の理論とモデル②（個人レベルの理論とモデル）」 個人レベルの行動科学理論について事例を用いて学び、理論の理解を深める。								
授業計画 【第8回】	「行動科学の理論とモデル（集団レベルの理論とモデル）」 集団レベルの行動科学理論について講義し、集団を対象とした栄養教育について理解する。								
授業計画 【第9回】	「行動科学の理論とモデル（集団・社会レベルの理論とモデル）」 社会レベルの行動科学理論について講義し、社会環境と食行動の関連について理解する。								
授業計画 【第10回】	「健康増進や生活習慣病のコントロールに共通した行動技法の概念」 ～栄養カウンセリングとコミュニケーション～ 行動変容技法および栄養カウンセリングにおけるコミュニケーション技法について理解する。								

授業計画 【第11回】	「行動療法に基づく面接、栄養カウンセリング」 ～行動療法に基づく栄養カウンセリングとコミュニケーション～ 対象者の準備性を見極め、適切な支援を行なうために重要な初回面接・カウンセリングを理解する。
授業計画 【第12回】	「栄養教育の展開」 栄養教育関連組織、栄養教育実施者の連携、地域における連携とチームワークについて理解する。
授業計画 【第13回】	「組織作り促進のための方法」 栄養教育の実施、栄養教育の組織・地域づくりへの展開について理解する。
授業計画 【第14回】	「食環境づくりにおける栄養教育」 栄養教育における食環境づくりの必要性。食環境、食行動と心理。食物・情報アクセス面での展開。 食環境整備と栄養教育の関係について講義し、環境的アプローチの重要性を理解する。
授業計画 【第15回】	「栄養教育の国際的動向」「栄養教育の場と法的根拠」 栄養教育の国際的動向および栄養教育に関係する法制度について講義する。 管理栄養士による栄養教育は法律に基づいて行われることを理解する。
授業の到達目標	1 栄養教育は健康の保持・増進・生活の質・人生の質の向上に寄与することが目的であり、望ましい食行動の形成と確立を目指す人間教育を行うためには人の行動を全人的に理解することが重要であることを理解する。【知識・理解の育成】 2 行動変容促すための理論や技法、栄養カウンセリングにおける初回面接やコミュニケーションについて習得する。【汎用的技能の育成】 3 栄養教育に携わる管理栄養士としての高度な倫理観を醸成する。【態度・志向性の育成】
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外学習【予習】	講義前に資料や教科書を確認し、栄養教育の理論や手法の基本を理解する。事前課題に取り組み、実践的な視点を養うことで、講義内容の理解を深め、積極的に議論に参加できるよう準備する。(課題の提出1時間)
授業時間外学習【復習】	講義内容を振り返り、テストノートや資料を整理して理解を定着させる。実践事例を自身の経験と結び付け、疑問点を解消しながら、次の講義への学びを深める習慣を身につける。(課題の提出1時間)
課題に対する フィードバック	小テスト、定期試験は解説入りの回答を返却する。 各問題や課題についての解答例や重要なポイントを解説し、理解を深める機会を提供する。
評価方法・基準	以下の結果を総合して評価する。 1) 定期試験 (50点) : 栄養教育、行動科学、栄養カウンセリング等に関する知識・理解および応用力 2) 小テスト (30点) : 授業内容に関する知識・理解の確認 3) 授業態度・授業への参加度 (20点) : 課題への取組、発言、協働等
テキスト	『管理栄養士講座 栄養教育論 第3版』中村丁次・外山健二・笠原賀子 編著 健帛社 (4180円)
参考書	『改訂マスター栄養教育論』逸見幾代・佐藤香苗 編著 健帛社 健康・栄養科学シリーズ『栄養教育論』丸山千寿子・足達淑子・武見ゆかり 編集 南江堂 『行動変容のための面接レッスン 行動カウンセリングの実践』足達淑子著 医歯薬出版 『ライフスタイル療法! 第4版 生活習慣改善のための行動療法』足達淑子著 医歯薬出版
備考	